

活動報告書

報告者氏名：藤井 早苗 所属：埼玉県立大宮北特別支援学校 記録日：平成 26 年 2 月 27 日

【対象児の情報】

- 学年 高等部 2 年生（重複クラス在籍）
- 障害名 知的障がい ウエスト症候群
- 障害と困難の内容
 - ・療育手帳 ㊤ 太田 Stage I - 2。
 - ・興味関心の対象が、主に音に限られており、その他のものに対してあまり興味を示さない。
 - ・自分から人とのかかわることが少ない。
 - ・発語はなく、要求を周囲の人に伝えることが難しい。

【活動目的】

- 当初のねらい
 - ・興味関心の幅をより広げることができるようにする。
 - ・「～したい」という気持ちを伝える手段を身につけることができるようにする。

☆なぜ iPad を利用することにしたか☆

①画面の見やすさ

電子黒板や大型テレビ	iPad
画面との距離が離れていると興味を示さない。近いと全体がつかめない。	画面との距離が適切で見やすい。音と共に映像も楽しめる。

音だけではなく、映像にも興味を示すことができるのではないか？

②人とのかかわり

水の入ったペットボトルや紙	iPad
自分で好きなときに音を出すことができる。	起動したりアプリを利用するためには教員の支援が必要である。

人とのかかわりが増え、コミュニケーション手段を増やすことができるのではないか？

以上の 2 点から iPad を学習活動に導入することにした。

○実施期間

高等部 2 年 4 月～高等部 2 年 3 月まで
主に国語数学の時間（週 2 回 1 時間）

○実施者

藤井 早苗

○実施者と対象児の関係

学級担任及び国語数学の授業担当

【活動内容と対象児（群）の変化】

○対象児（群）の事前の状況

- ・絵本や電子黒板、教員の話にはなかなか関心が向かず、一人でペットボトルマラカスや紙を揺らすことを好む。
- ・紙やペットボトルマラカスなど欲しいものがあり、自分では届かない場所にあるときは教員の腕を引っ張って取らせようとする事が多い。

○活動の具体的内容

主に国語数学の時間に iPad の時間を設け、いろんなアプリを使ったり、1回終わるごとに「ください」のサインを出す練習に取り組んだりする。

○対象児（群）の事後の変化

①昨年度の国語数学の時間に「グーチョキパーで何作ろう」の手遊びに取り組み、教員の手遊びを注視する姿が見られた。また、歌の後半部（♪ちょうちょ、ちょうちょ）に近いメロディを口ずさむことが多かったため初めに YouTube を使い、「グーチョキパーで何作ろう」の動画を見せると画面に注視する姿が見られた。



最初のうちは、この動画が終わると教員の手をつかんで、もう一度タップさせようとした。（家でも両親、姉の携帯電話に興味を示し、見ていることが多いそうである）

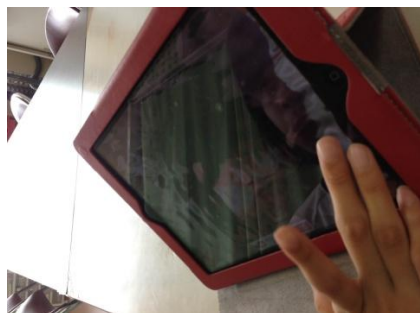
そこで、本児の手をとって「Aさん、トントンだよ」と教員の肩を叩く練習をすることを続けた。そのうち、まず中学部時代に身につけたものの、高等部に入ってからほとんど見せることがなかった両手を叩く「ください」のサインが時々見られるようになった。

また、最初のうちは教員が手をとって叩かせていたが、言葉かけだけで教員の肩を叩こうとする様子が見られるようになった。

はじめは「グーチョキパーで何作ろう」ばかり見ていたが、いろいろな動画を見せていくうちに、「だんご三兄弟」「からだ元気？」など繰り返し見たがる動画のレパトリーが増えてきた。



②iPadに慣れてきたので、YouTube以外でもPocketPondや花火、MagicZitherなど音が出たり画面に変化があったりするアプリを提示してみた。中でもPocketPondは手を動かして画面をなぞることで音が出てきて、それが自分の好きな水の音なので喜んで繰り返し画面に手を伸ばし、楽しむようになってきた。



③楽しむだけではなく、iPadがやりたいときには肩を叩いて伝える練習にも取り組んだ。最初は肩を叩くことを直接手を取って支援し、「トントン」ということばと結びつけるようにした。徐々に支援を減らしていった。「Aさん、トントンは?」と促すことで教員の肩を叩き、「もっと」という気持ちを伝えることを練習しているところである。

④担任が新しく入れたArpieというアプリを気に入るようになった。アクセスガイドを使うことで他の画面へ移動することもなくなり、十分楽しめている。自分の手を動かして画面にタップすることで出てきた○を見ながら、映像と音を楽しんでいる。ここに教員がわざと○を消すと、もう一度画面上に◎を作り出したり、画面に紙などを載せるとつまんでよけたりする様子が見られた。



【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

Aさんの好きな「音」を切り口にする事で映像にも興味を示すようになり、興味関心の幅が広がってきた。また、コミュニケーションの手段を増やす手がかりにすることができた。

・エビデンス

普段は、ペットボトルを揺らしたり自分で「かっかっか」など好きな声を出したりして一人の世界に入っていることの多いAさんであるが、iPadを教員が持っている自分から駆け寄ってくる事があった。また、自分からiPadを探して机やロッカーの中を覗き込んだりする様子が見られた。そして、iPadを手に入れると、自分から教員に差し出し、起動するように手を引く様子が見られた。